

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会

日 時	平成 29 年 8 月 29 日（火） 13:30～15:20
場 所	市役所 3 階 庁議室
出席者	委員 15 人 坪水徳郎、皆倉貢、堀之内健郎、松下雅雄、橋口浩二郎、前田浩志、鶴丸博志、坂口和俊、久保健太郎、加藤リサ、坂口志織、落司ひとみ、浜田保、宮下恵子、隈崎和代

■主な質疑等

発言者	内 容
委員 事務局	<p>1 やってみたい仕事ができるまちへ</p> <p>○小規模企業等立地促進補助金はどのくらいの額か。 ⇒情報通信業が最大で 480 万円、飲食業は 450 万円である。内訳は、用地取得費や機械設備、雇用促進助成金等である。</p> <p>委員 事務局</p> <p>○地元就職支援事業は 2 月に実施予定とあるが、高校 2 年生を対象としたものか。 ⇒高校 2 年生を対象に 2 月に最初の合同企業説明会を実施し、3 年生になった 1 学期に、もう一度説明会を実施するよう計画している。</p>
委員 事務局	<p>2 いつでも訪れやすいまちへ</p> <p>○空き家バンクを利用しての移住者はどのような職業に就いているか。 ⇒最も多いのは会社員である。都会で定年退職された方や、妻の実家の家業を引き継いでいる方もいる。</p> <p>委員 事務局</p> <p>○本市への移住とあわせて起業される場合もあると思うが、その場合には、定住促進の部門と産業振興の部門はお互いに連携をとっているのか。 ⇒連携をとっており、小規模企業等立地促進補助金等も活用できる体制をとっている。</p>
委員 事務局	<p>3 子育てしやすいまちへ</p> <p>○鹿屋寺子屋事業は何箇所実施しているか。 ⇒H28 から 2 箇所、H29 に 4 箇所増やして全体で 6 箇所となっている。毎週金曜日週 1 回の開催で、月に 1 回土曜日には、地域の技術を持った人を呼んで物を作ったり体験活動をしている。今後 4 年間で全中学校区へ広げていきたい。</p> <p>委員 事務局</p> <p>○保護者の希望する保育園が市街地に偏り、地方の園に空きが出る傾向であるため、鹿屋の中心にステーションを作ってはどうか。保護者はステーションへ送り迎えをして、各園はそこへ迎えに来る。 ⇒都会では、駅の近くに保育のステーションを作っているケースがあると聞く。子育て会議などの機会を通じて、鹿屋市全体を考える立場や視点で議論を進めたい。</p>
委員 事務局	<p>4 未来へつながる住みよいまちへ</p> <p>○歩道のカラー化は保護者等から喜ばれている。この取り組みは今後も続けていくのか。 ⇒今後も道路改良と一緒にやったり、学校側と協議をしながら進めていく。28 年度にグリーンベルトを実施したのが 11 校、延長で 3,536m。29 年度は 3 校実施する予定。</p> <p>委員 事務局</p> <p>○光ブロードバンドの整備は定住促進の原動力になると思うが、光ブロードバンドは市全域に行き渡るのか。 ⇒平成 29 年度は大始良、細山田など 8 地域を実施する。平成 31 年度で全ての地域が完了する。</p>

	<p>5 その他</p>
委員	○リナシティかのやを、もっと市民に使いやすい施設にしてほしい。
事務局	⇒リナシティかのやの機能や役割について、有識者や市外の方も含めて意見交換を行う懇話会を設置して検討していきたい。
委員	○県外の方は「鹿屋（かのや）」と読めない。正確に読まれないために、移住や様々な取り組みの中でマイナスがあると思う。
事務局	⇒現在、シティセールス基本指針を策定作業中である。鹿屋そのものをどのようにして売り込むのか、鹿屋の歴史・文化・食品・自然・住んでいる人の思いなどをどう売り込んでいくのか、そういうことに視点を置きながら取り組んでいきたい。
委員	○移住定住については、地域の課題を解決してくれる人材を求める取り組みもある。
事務局	⇒移住については、地域の活力につながる人、地域に大きな風を起こしてくれる人を望んでいる。人脈が大事だと思っているので、多くの人脈・ネットワークをもった人を探したい。
委員	○何を実現すれば最終的に人口減少を抑えられるのか、活動指標（実績）と成果指標を関連付けた方がPDCAも進めやすいのではないか。
事務局	⇒指標については、作り方や指標がこれで良いのか、もう一度見直したい。